



英国だより



元広島大学保健管理センター保健師
井上真紀（旧姓 岡田）

村上さんよりイギリスだよりを聞かせてと原稿の依頼をいただきました。少し迷いましたが、イギリスに来て1年、暮らしの中で思ったこと、感じたことをみなさんに少しお伝えしようと思ひ、このお話をお引き受けしました。

私が住んでいるのは、London（ロンドン）から車で1時間半、Oxford（オックスフォード）から15分程の Abingdon（アビンドン）という町です。イギリスで暮らすだなんて思ってもいなかったもので、初めはどうなることかと思いましたが、住めば都、あっという間に1年が過ぎました。こちらの暮らしにも随分慣れたような気がします。今ではすっかり housewife（主婦）が板につき、週2日、近くのカレッジの“ESOL (English for Speakers of Other Languages)” というコースに通って英語力を磨いています。



<日常生活>

うちの近くにはテムズ川が流れていて、天気がよい日には散歩に出かけたりしています。そこで、家族連れ、夫婦、若いカップルなどなど散歩している人々にたくさん出会います。イギリス人は本当に散歩好きです。



イギリスの産業革命は水運が支えたと言われるとおり、イギリスでは川と運河を通して国中を旅することができます。Abingdonを流れるテムズ川でも季節のいい夏の間は、イギリス独特の Narrow Boat（ナロー・ボート）や小型モーターボートなどで、川と運河伝いに国内旅行を楽しむ人々がたくさん行き来します。



イギリスはあまり雪が降らないと聞いていたのですが、昨年も今年も記録的な大雪です。こんな雪の日でもたくさんの方が喜んで散歩しています。

犬を連れている人も多く見かけますが、誰もリードはつけていません。しかし犬は、他の人には見向きも吠えもせず、飼い主に忠実について行きます。躰をふくめたペットとの付き合いがみんな上手で、本当に感心します。



春になると、一面に広がった菜の花畑があちらこちらで見られます。まるで黄色い絨毯が敷き詰められているようで、とてもきれいです。

羊、牛、馬などもあちらこちらにいて、とてもどかな風景です。

ときには一般道路で乗馬をしている人もみかけます。

こういう風景をみていると心が穏やかになります。



日々の買い物は、近くの大型スーパーマーケットへよく行きます。肉は固まりで売られていることが多く、一口大にカット、分厚くスライスしたものはありますが、薄切りのものはありません。



野菜や果物は、袋に入ったものもありますが、量り売りもあり便利です。果物は自然な甘さと酸味があり、昔懐かしい素朴な味がしてとてもおいしいですよ。食材は種類も豊富でスーパーを見てまわるだけでも飽きません。



イギリスの食事は“不味い”とよくいわれますが、スーパーで売っている食材を見る限りそうは思えません。



高齢者や身体にハンディがある方も、車椅子や杖を使用してショッピングを楽しんでいます。また若い人たちが積極的に手を貸すことも普通です。このような光景がどこでも日常的に見られるイギリスは、さすがに高福祉が行き渡った国だと実感します。





一年を通じてどこのお宅もガーデニングを楽しみ、特に春から秋まではお庭は色とりどりの花で埋め尽くされます。



さすがは“ガーデニングの国”、花や野菜の種、苗、ガーデニング用品全てをそろえた大型のガーデンセンターが至る所にあり、老若男女問わず訪れいつもにぎわっています。



DIY (Do It Yourself) ショップもどの町にも必ずあり、日曜大工用品がところせましと並べられています。イギリス人は、部屋のペンキ塗りや壁紙の張り替え、タイル貼り、お庭の塀の修理など、自分の家のことは自分たちで何でもします。



ご紹介したようにイギリス人は、休日には散歩やガーデニング、DIYなどいろいろなことを楽しんでいます。何事も楽しんでおこなうことが、心にも身体にもよいのではないかと思います。



こちらに来て驚いたのが、夏の終わりなどにあちこちで開催される Fun Fair。

その目玉はいわゆる移動遊園地です。Abingdon でも年1回、町の守護聖人（聖ミカエル）をお祝いする“Abingdon Michaelmas Fair” というお祭りのとき、移動遊園地がやって来ます。この日は町のメインストリートが約 1km に渡って通行止めになり、たくさんのアトラクション、チップス（フライドポテト）、バーガー、綿菓子などを売る屋台がひしめきます。移動遊園地なんて日本では考えられませんが、この日は、子供から大人までみんな楽しめます。回転系やスタンディング系の絶叫マシン、バンジーjumpなどのアトラクションは結構迫力ありますよ。



いつもは静かな町も、このように熱気に包まれたり、マーケットでにぎわったり、クリスマスツリーが飾られ神聖な場所と化したり、いろいろな表情をみせてくれます。

小さな町でも“楽しいこと”をみんなで共有することは上手です。

小さな町でも“楽しいこと”をみんなで共有することは上手です。



<イギリスの医療>

医療機関には、NHS (National Health Service) という国営サービスの医療とプライベート (私立) 医療があります。NHS は国費でまかなわれており“無料”が原則ですが、プライベート医療では治療費等はすべて患者負担となります。医療を受けるには、まず GP (General Practitioner) に登録しなければなりません。受診には原則予約が必要です。あらゆる疾患の初期診察や治療は、まず GP の診療を受け、さらに検査が必要な場合などは NHS や各種専門医などの適切な医療機関に紹介されます。私も近所の GP に登録しました。登録時に健診と称して看護師に血圧測定をしてもらいましたが、まだ幸いにも医療を受けたことがないので、実際の医療現場の様子がわからないのが現状です。

日本での経験から、AED がどこに設置してあるかどうしても探してしまうのですが、空港では普通に見かけても大型スーパーマーケットなどその他の場所ではあまり見つかりません。日本ほど普及していないのでしょうか？



近所の GP
(General Practitioner)



ドアには FLU
(インフルエンザ)
の注意書き



アビンドンにある NHS
(National Health Service)

<イギリスの教育制度>

イギリスでは、5 歳程度から義務教育が始まり 10 歳または 11 歳まで First School (学校によっては First School + Middle School という構成の場合もある)、11 歳または 12 歳から 18 歳まで Secondary School に通うのだそうです。この間がいわゆる義務教育期間です。

First School は日本の小学校・中学校に相当し、Secondary School では日本の高校と大学の初年度にあたる教育が受けられます。Secondary School を卒業したと認定されるためには、16



Abingdon & Witney College

歳の年に GCSE (General Certificate of Secondary Education) という義務教育修了時のテストを受け合格した後、17 歳から 18 歳の 2 年間 (6th Form と呼ばれる) で A-Level (General Certificate of Education - Advanced Level) と呼ばれる資格の取得が必要です。この A-Level が高等教育の修了資格で同時に大学の入学資格になります。そのため、6th Form では日本の大学の初等教育に相当するかなり高等なことを勉強するようです。A-Level は自分が行きたい大学の学部にあった専門的なものを取る必要があります。

す。GCSE はかなり教育的な要素が強い（日本で言うと普通科での教育に近い）のですが、一方で職業的な資格もあり、それは GNVQ（General National Vocational Qualification）や NVQ（National Vocational Qualification）と呼ばれています。つまり 16 歳の年に、GCSE を取る人と GNVQ/NVQ を取る人に分かれて、GCSE を取った人はその後 2 年で A-Level をとって大学進学、GNVQ/NVQ を取った人は就職とわかれます。



私が通っているカレッジ（Abingdon & Witney College）は Secondary school で、GCSE、NVQ および A-level の取得を目指す若者が通っています。と同時にいわゆる“生涯学習”を目的とした社会人向けのコースや、外国人を対象とした英語習得コースなども数多く設けられていて一般にもオープンな学校です。

イギリス人の知り合の方から、全国的にほとんどの学校で看護職が働いているということを知りました。と同時に、私も経験を活かしてどこかの学校で働けるといいねと励まされました。しかし私が通っているカレッジを見る限り、保健室のようなものはありますが看護職は常駐していません。

<禁煙と喫煙について>

イギリスの喫煙率は現在約 21%です。2006～07 年に屋内の公共空間が全面禁煙になったので、レストランやパブの入り口付近など外で喫煙している姿をよく見かけます。カレッジの建物の入り口にも建物内禁煙の掲示があり、建物内禁煙は実施されていますが、敷地内禁煙まではなされていません。私が見る限り若者をはじめ喫煙者はまだまだ決して少なくないようです。



<その他思うこと>

道を歩いているとドライバーがみんな歩行者にやさしく、必ず道を譲ってくれることに気づきます。スーパーでは、レジに長蛇の列ができていても、誰一人文句を言う人はいません。買ったものは自分で袋詰めしますが、レジの人が“Are you packing in?”と声をかけてくれ、自分で袋詰めが難しいようならお店の人が手伝ってくれます。このような中で暮らしていると、気持ちも穏やかになり人にもやさしくなれます。やはり、“Gentleman の国”だからでしょうか？こういう気持ちは世界中の誰もが持っていると思うのですが・・・。

最後においしいお話をひとつ。イギリスで有名なアフタヌーンティー。紅茶とスコーンをセットにして、スコーンには Clotted cream（クロテッドクリーム）という脂肪分がバターより少なめのクリームとストロベリージャムをつけて食べます。Cream Tea（クリームティー）と呼ばれるこのセットはとてもおいしくお勧めです。私も最近いろいろなお店の Cream Tea を食べ歩いています。



イギリスのことを少し身近に感じていただけただけでしょうか？

イギリスの保健衛生を含めまだまだ知らないことが多いですが、これからもっといろいろなことを知りたいと思っています。機会があればまたご報告します。